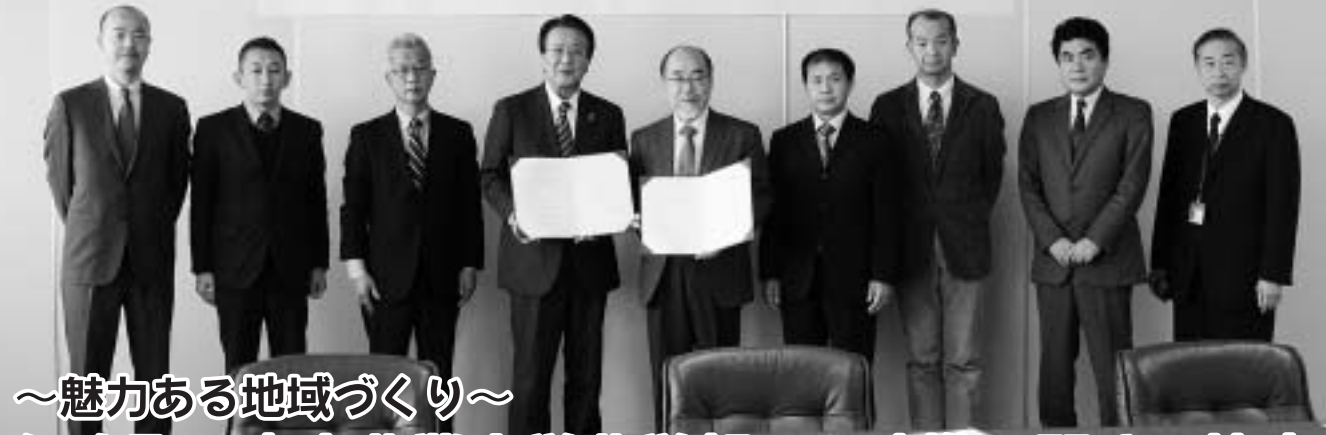


# 矢吹町と東京農業大学農学部調印式



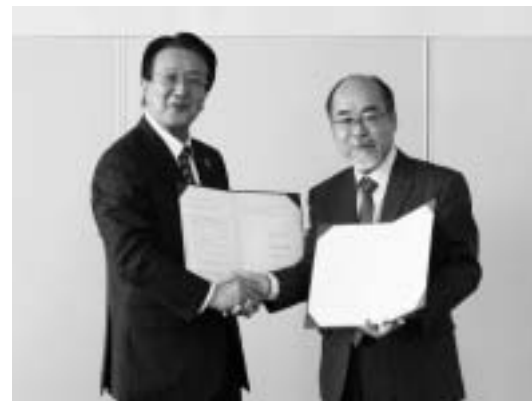
## ～魅力ある地域づくり～ 矢吹町と東京農業大学農学部との連携に関する協定

この度、矢吹町は、東京農業大学農学部（鈴木敏郎農学部長）との連携に関する協定を締結しました。東京農業大学農学部は、田んぼの学校や大学生の研究・実験で来町するなど、以前から矢吹町と交流がありました。連携協定を締結することで、より一層、矢吹町における農業振興・地域振興に取り組むことが可能となります。また、本協定は東京農業大学農学部が締結する連携協定の第1号として、記念すべきものとなりました。今後は農学部の知的財産等を活かし、双方の関係構築を図り、連携協定に基づき魅力ある地域づくりを進めることとなります。

【調印日】 平成26年12月19日(金) 午後2時  
東京農業大学厚木キャンパス（神奈川県厚木市）

【協定内容】 連携協定の主な内容  
・自然、環境、農業及び地域振興に関すること。  
・まちづくり及び人づくりに関すること。  
・食育の推進に関すること。

【今後の活動】  
今後は町として、農学部の学生の農業体験受け入れや研究フィールドの提供を行います。  
また、大池公園の大賀ハス再生プロジェクトや小中学生への食育、農業の6次産業化等助言をいただき、農業振興・地域振興につなげていく考えです。



協定書を手に固い握手を交わす鈴木敏郎農学部長（右）と野崎町長（左）

### 矢吹町堆肥活用事業補助金をご利用ください

町内の畜産農家が生産する家畜ふん堆肥の利用を促進し、化学肥料や農薬の使用回数を減らした環境保全型農業を推進するため、堆肥を購入して利用する農業者に補助金を交付します。流通している堆肥は安全が確認されていますので、ぜひご利用ください。

- 1 補助金額 堆肥1トンあたり1,000円（50,000円を限度とします。）
- 2 対象者 町内畜産（牛・豚）農家から堆肥を購入した町内の農業者
- 3 申請方法 産業振興課に申込みください。

- 持参する物
- ①領収書（必ず購入量が記載されていること）
  - ②印鑑
  - ③通帳（購入者名義）



産業振興課 農政係 ☎（42）2115



### 中学生海外派遣事業inオーストラリア 五感を通して国際感覚を磨く！



#### ◇中学生海外派遣事業参加者（敬称略）◇

●：代表 ○：班長 ○：副班長

| 班 | 氏名     | 役割 | 班 | 氏名     | 役割 |
|---|--------|----|---|--------|----|
| 1 | 本田 響   | ○  | 5 | 長尾 龍歩  | ○  |
|   | 島津 正嗣  | ○  |   | 泉川 諒太郎 | ○  |
|   | 中島 里菜  | ○  |   | 安田 ゆい  | ○  |
|   | 宇田川 梨乃 | ○  |   | 佐藤 綾音  | ○  |
| 2 | 伊藤 拓海  | ○  | 6 | 添田 凌真  | ○  |
|   | 関根 沙文  | ○  |   | 高久 翼   | ○  |
|   | 金沢 琉那  | ○  |   | 佐藤 美美  | ○  |
|   | 佐藤 百華  | ○  |   | 小針 綺光  | ○  |
| 3 | 小澤 陸   | ○  | 7 | 伊藤 太雅  | ○  |
|   | 佐藤 響   | ○  |   | 関根 幸佑  | ○  |
|   | 須藤 直実  | ○  |   | 井上 陽   | ○  |
|   | 遠藤 あゆな | ○  |   | 川上 千尋  | ○  |
| 4 | 高澤 皓人  | ○  | 8 | 菊地 陽向  | ○  |
|   | 山口 光輝  | ●  |   | 星崎 海希  | ○  |
|   | 佐藤 紗羽  | ○  |   | 國井 誉人  | ○  |
|   | 酒井 はつき | ○  |   | 長尾 梨紅  | ○  |
|   |        |    |   | 澤山 訓栄  | ○  |

団長：山野辺幸徳 学校教育課主幹  
 随員：熊田真由美 出納室主任主査  
 随員：水戸 政司 学校教育課主査  
 添乗員：荒川 有紀 (株)JTB東北  
 現地添乗員：藤川 泉 パノラインターナショナル



### 英語でコミュニケーション 五感で異文化体験！

町の将来を担う子ども達に、より早い時期から国際感覚を身につけてもらうため、中学2年生33人参加の「中学生海外派遣事業」は、12月23日から29日までの5泊7日で実施されました。

今年度は、オーストラリア・ケアンズでホームステイを2泊3日実施し、英語でのコミュニケーションを通して現地の人々とふれあい、言葉・表現の難しさや、真夏のクリスマスなどオーストラリアの文化を、五感を通して感じる事ができました。

また、現地では、天候に恵まれ、連日30度を超す気温と、日本の7倍と言われる強い紫外線のもとでの活動となりましたが、ホームステイの他にも、日本では味わえない熱帯雨林気候の中での自然体験や世界遺産グレートバリアリーフでのシュノーケリング体験等の活動で、より充実した研修となりました。

子ども達は、自ら異文化体験を通して、日本文化の良さ・ふるさと矢吹の良さに新たに気づくことができたようです。33人の皆さんの今後の活躍を期待しています。